

みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアムに関して

【20191209 文化審議会博物館部会 資料／美濃加茂市】

概要（別添パンフレット等参照）

- ・開館 2000年（平成12）10月（計画は1983～）
- ・形態 美濃加茂市直営（市民協働部所管） ＊文化財保護、文化振興業務も担当
- ・規模 敷地面積約27,560㎡、延床面積5,879㎡ ＊教育センターを併設
- ・年間入館者 86,701人（2018年度）
- ・領域 考古、歴史、民俗、美術、自然史（学芸員数5（正規3、嘱託2））
- ・収蔵資料 68,072点（2018年度末）
- ・いわゆる「地域総合博物館」

設立の理念

「自然との共存」「学校教育との連携」「市民参画」「地域づくり」

行っていること・考えていること

☆「機能」と「役割」

○博物館の「機能」 → モノを中心として人との関係性をしめすもの

あつめる（収集）

まもる（保存）

しらべる（調査）

蓄積



つたえる（教育・展示）

還元

○博物館の「役割」 → 「機能」を踏まえてもたらされるもの

・人に関して

知的好奇心を刺激する場

多様な価値観に気づき、イメージを築く場

非日常でありながら日常の知的空間として心地よくなる場

・地域と社会に関して

地域アイデンティティを発見し発信するセンター

地域への愛着・誇り（シビックプライド）の醸成

「地域課題」とまちの活性化

仲間とコミュニティが形成

様々なものをつなぐ「ハブ」



☆めざすもの

「さまざまな地域資源が活かされ、ここで自由で深まりのある文化活動と多様な交流が行われるよう願っています。人々の「くらしの一部」として利用され続けるとともに、まちや社会にとって必要とされる場になることをめざします。」

(みのかも文化の森・市民ミュージアムの紹介パンフレットの「ねがい」)

☆市の文化政策として

○市民にとっての「心のよりどころ」

○市にとっての「地域のよりどころ」

- ・「よりどころ」とは、ひとの生活や地域に根差した身近なもの
- ・博物館の「博物」は必ずしも貴重なものとは限らない
- ・ミュージアムとともに、それらを見つけ、集め、調べて、生かす 文化政策

それは市としてオリジナルなものになり、他にはない個性あるまちづくりにつながっていく。

少し具体的に

*博物館は「展示」だけでない…

*博物館は単なる「貸展示場」「サービス機関」ではない

*少しこだわりをもって市民とともに作り上げる

たとえば

- ・学校との関係（小学校6年間に10回以上の「濃厚な」利用）
- ・人物資源をとおした活動（坪内逍遙、朗読、演劇…）
- ・「地域」へ働きかけ（「山之上展」…（「地域」とは小学校区のコミュニティ）
- ・伝承料理の会の活動（市民による地域食文化資源を発掘、提供）
- ・福祉に対する働きかけ（高齢者を元気に「美濃加茂すごろく」の作成、活用）
- ・横断的切り口でモノを見る（展示：「ミュージアムグッズ」「ダム」「使い込むほどに展」…）

関連指標

- ・地域資源のプラットフォームである「美濃加茂事典」の充実度（各種データベースを連結）
- ・市民が一緒になってかかわる その参画の度合い
- ・子どもたちへの影響…「場」の体験、地域意識の芽生え

(授業利用から行動の広がりへ…6年間学んだ子どもたち+成人式を迎えた人たちに対するアンケート)